

I 年道徳 学習指導案

ねらい 異性の友達と友情を育んできた「僕」の物語を通して、心から信頼できる友達とはどんな存在かについて考えさせ、友情の尊さを理解し、人間関係を深めようとする心情を育てる。

	学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）	指導上の留意点
1	<p>▶自分にとって、友情とは何かを考える。 ○「友達」と「親友」は、どう違うと思いますか。</p> <p>考えよう みんなで考えたい問いを作り、その問いに向き合おう。</p>	<p>◆展開例（A案）と同じ。 ◆「今日は友情とはどういうものかについて考えましょう。」と投げかけ、本時の方向づけをする。</p>
2	<p>▶「親友」を読んで問いを立て、話し合う。</p> <p>①「親友」を読んで、あなたは、どんなことを考えたいと思いましたか。「問い」の形で表してみましょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」が何も言ってくれなかったとき、美咲はどんな気持ちだったのか。 ・美咲と「僕」の間に、友情はあったのか。 ・友達という存在は、いちばん助けが必要なときに支えてあげることができるか。 <p>②一人一人が考えた問いを発表し合い、グループで問いを作りましょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」が何も言ってくれなかったとき、美咲はどんな気持ちだったのか。 ・「僕」はどうして何も言えなかったのか。 <p>→結局、二人の間に本当の友情があったのかどうかを話し合いたい。</p> <p>③作った問いについてグループで話し合い、自分たちなりの答えを考えましょ。どんな考えが出たかをクラスで発表し、さらに質問し合って、考えを深めましょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美咲と「僕」の間に、友情はあったのか。 <p>→なかった。「僕」は自分のことしか考えていない。 →あると思っていただけ。いちばん友達のことを考えなければいけないときに、考えられなかった。</p> <p>④「友情」とは、どのようなものでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達でも許せないことはある。友情は、固い絆というけれど、友達どうしの信頼関係は、簡単に壊れることもある。だからこそ、相手を大切にしたい。 <p>⑤①で考えた、あなた自身の問いに立ち戻りましょ。あなたなりの答えを見つけることはできましたか。</p>	<p>主体的な学び いきなり「問いを作ってみよう」と投げかけても、なかなか言葉にできない生徒もいるだろう。まず初発の感想をもとに、最も心を動かされたところや「なぜ」「どうして」と疑問に思ったところなどを出させ、その思いをきっかけに、問いを作らせるとよい。 ◆教科書P.38の問いの例などを参考に、考えさせる。</p> <p>対話的な学び できれば多数決などではなく、互いの問いに共通する何かを見いだすようにする。 ◆一つの問いに集約できなくてもよい。互いの考えの差が明らかになれば、問いに優先順位をつけ、時間内で話し合えるようなら、複数の問いでも認めるようにする。</p> <p>対話的な学び グループでは、「どうしてそう考えたの?」「もっと詳しく教えて。」などと問い返しなが話し合えるよう、指示しておく。 ◆学級でグループの話し合いの結果を交流する。グループの代表に、①立てた問い、②どのような点にこだわり話し合いが進んだか、③どのような答えが出たか、を発表させる。発表に対し、質問や感想があれば伝えるように指示しておく。</p> <p>◆友達の多様な考えに触れ、広がっていた思考を、ここで「友情とはどのようなものか」という道徳的価値に引きつけ、「自分にとって」という意識で考えを深めさせるようにする。</p> <p>◆生徒自身がもった最初の問いを振り返り、その問いに対し責任をもって答えを出させ、本時の学びの納得感を得られるようにする。 ◆ここではノートやワークシートに自分の考えを書かせ、自分と向き合って考えさせるとよい。</p>
3	▶本時を振り返り、まとめをする。	◆展開例（A案）と同じ。